

# がん検診

## ■ 胃がん検診（職域・地域）

職域検診では、X線撮影（バリウム）および内視鏡（施設検診のみ）による胃がんのスクリーニングを行っている。X線による検診は、一次検診から精密検査まで実施する団体（Aグループ）と、一次検診のみを実施する団体（Bグループ）を設定している。今年度は、当施設で二次検診の内視鏡検査を行った326名から1例の胃がんを発見した。内視鏡による検診はその数が増加しているため、医師・コメディカルのスタッフを増員し、受け入れ態勢をはかっている。今年度は3,867名の内視鏡検診を行い、胃がんを3例、食道がんを1例発見した。

地域検診では、当協会は専門医・放射線技師・事務スタッフが地域医師会での読影会に参加し、読影精度の向上に協力している。また住民検診を行う検診機関の精度管理の向上や行政、医師会をはじめとする関係機関との連携協調を図る「神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会」の事務局を担当している。神奈川県下14市町村より委託を受け、検診車による検診を実施。11,762名（男性5,287名・女性6,475名）が受診し、22例（男性17例・女性5例）の胃がんを発見した。

## ■ 大腸がん検診（職域・地域）

免疫学的便潜血反応2日法による大腸がんスクリーニングは、厚生労働省の研究班により有効性が立証されている。

令和元（2019）年度、職域では83,833名（男性57,830名、女性26,003名）が受診し、要精検率は5.0%であった。

地域では、平成4（1992）年度より老人保健法に大腸がんが加わり、平成14（2002）年度より健康増進法に基づく健康増進事業として市町村が主体となって実施されている。今年度、検診を受託した団体は15市町村で、14,151名（男性5,518名、女性8,633名）が受診した。要精検者数は910名で、そのなかから33例（男性15例、女性18例）の大腸がんが発見された。

## ■ 超音波検診

超音波を対象物に当ててその反響を画像化する検査方法であり、何回行っても人体にまったく害のない検査である。腹部の実質臓器（肝臓、膵臓、胆のうを含む胆道、脾臓、腎臓、および腹部大動脈など）を対象とした検査（今年度22,775件）を実施している。各臓器の悪性腫瘍を疑う所見については精密検査が必要な「要精密検査」（全体の2.0%）となり、専門医療機関へ紹介している。そのほか肝血管腫、脂肪肝、無症候性胆石、胆のうポリープ、大動脈の石灰化などが診断される。これらの有所見者については近医に紹介するほか、当協会では超音波外来においてフォローアップを行っている。

## ■ 肺がん検診（職域・地域）

胸部X線と喀痰細胞診（ハイリスク者のみ）による肺がんのスクリーニング。専門医による二重・比較読影を行っている。

当協会専門医による二次読影を行い、可能であれば過去画像を参照し比較読影を行っており、読影結果を医療機関へフィードバックし、要精検と判定された画像は各医療機関で最終判定をして、受診者に結果が伝達される。この流れの中で各医療機関だけでなく関係自治体・医師会の担当部署を含めて、精度管理の向上に努めている。

厚木市では平成13（2001）年度から、大和市では平成20（2008）年度から当協会が関与している。横浜市の肺がん検診は市内居住の受診希望者であり、平成20年度から一次読影を行い、二次読影は中区医師会で他医療機関の専門医が読影し、各医療機関で最終判定を下す体制をとっている。今年度検診（二次読影）を受託した自治体は11市町村（横浜市を除く）で、6,636名（男性2,876名、女性3,760名）が受診、13例（男性7例、女性6例）の肺がんを発見している。

また、人間ドックや肺検診等でCT検診受診希望者を対象に、MD-CTによる低線量撮影の肺がんCT検診をしている。CT検診認定技師が一次読影を行い、医師2人（最低1人は呼吸器専門医または放射線診断専門医）が別々に二次読影している。被ばくを低減しても（1 mSv程度の低線量、通常施行されるCT検査の1/10程度）、診断に十分耐えうる良い画像を作成する技術を用いている。

## ■ 子宮がん検診（施設、地域・車検診）

施設での検診は診察（内診を含む）・細胞診による子宮頸部および体部のスクリーニング。希望によりHPV検査を行っている。問診と内診により発見される子宮筋腫や頸管ポリープなど、一般婦人科疾患の早期発見にも努め、適切に指示している。

車検診は、問診・細胞診による子宮頸部のスクリーニングを行っている。県内の5大学病院と県立がんセンターの婦人科腫瘍専門医からなる「子宮がん車検診実施検討会」を組織し、精度管理・向上に努めている。診察・細胞採取・診断は、同検討会の各大学病院婦人科医師が担当。当協会は「国際細胞検査士」によるスクリーニングと細胞診専門医により、精度の高い細胞診断を実施している。今年度、検診を受託した自治体は18市町村で14,617名が受診。上皮内がんを含む4例の子宮頸がん、また3例の子宮体がんを発見した。

## ■ 乳がん検診（施設・地域）

施設での検診は年齢に応じて視触診及びマンモグラフィ・乳腺超音波検査のいずれかを実施、精密検査まで総合的に行っている。今年度は19,629名が受診し、65例のがんを発見している。また、経過観察を行っていた1,374名のなかから25例のがんが発見された。また平成18（2006）年度より、“ピンクリボンかながわ”事務局としてNPO法人乳房健康研究会と共に、乳がんの早期発見・早期治療を目指し、乳がん検診受診率向上と乳がんについて知識の普及・啓発活動を行っている。

検診車による地域での検診は、国の指針に準拠し年齢に応じてマンモグラフィ検診を実施。読影は「神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会」の指導にもとづき、日本乳がん検診精度管理中央機構の検診マンモグラフィ読影認定医師が実施している。今年度検診を受託した自治体は18市町村で12,823名が受診。42例のがんを発見した。

## ■ 神奈川からがんをなくす会・ACクラブ

会員制のがん検診組織。ACとはAnti Cancerの略。「神奈川から肺と胃のがんをなくす会」を前身として昭和51（1976）年に発足した。消化器（胃・大腸）がん・肺がん・乳がん・子宮がんの早期発見・治療を目指し、会員専用フロアとスタッフを配し、経年変化を追ったきめ細かい対応を行っている。